姫路市総合福祉通園センター「ルネス花北」成人部機関紙

ゆうあいだより

障害者支援センター
かしのきの里
在宅障害者デイ・サービスルーム
書写障害者デイサービスセンター
広畑障害者デイサービスセンター
障害者やすらぎルーム　障害者体育館

あぼしリサイクル事業所
ぱっそ・あ・ぱっそ

№179　令和４年(2022 年)11 月 21 日発行

今年も残すところあとわずかとなりました。空気が乾燥し風邪をひきやすい季節ですが、体調に気をつけ、元気に忙しい年末を乗り越えたいですね。

今季号は新築移転から５年を迎えた障害者支援センターを振り返り、地域交流行事やプレパレーションの取り組み、実習生のメッセージなどを掲載しています。是非、ご一読ください。

ゆうあいギャラリー

タイトル

「まっかな秋」

書写障害者デイサービスセンター

共同作品

広く活動内容を知っていただくために、利用者の写真を多く掲載しています。
掲載写真は、ご本人の了承を得たうえで使用させていただいています。

特 集

障害者支援センター開所５年を迎えて

障害者支援センター　所長　高橋　晃

姫路市立障害者支援センターは平成 29 年８月 27 日に竣工式を行い、今年の９月で５年を迎えることができました。竣工式当日は雲一つない青空で新しい事業所の船出にふさわしいと思ったことが昨日のように思い出されます。この機会に姫路市立障害者支援センター（定員 115 人、以下支援センター）の構想から現在に至るまでの経過を振り返ってみたいと思います。

竣工式当日の支援センター

支援センターは姫路市立かしのき園、しらさぎ園、しいのみ園の ３ 事業所（以下旧棟）の機能がひとつに集まった多機能型事業所です。もともとは姫路市総合福祉通園センター児童部と同じ敷地内（増位新町二丁目 37 番地）にありました。当時は児童部と駐車場を共用していたため、児童部の保護者から「車を止めることができない」「車いすを降ろすことができない」など苦情が寄せられたり、駐車する車が道路にあふれ、周辺の交通の妨げになることもありました。

旧棟は建設から40年以上経過し、耐震化もされていないため、新たな場所で成人棟を新築するということが市で決まりました。ただ長年住み慣れた地域であるため愛情も沸き、離れがたくこの周辺で土地を探していたところ、姫路競馬場の駐車場であった現在の場所（県所有）が、姫路市との等地交換ができるという話があり、移転場所が決まりました。

旧棟の最後の数年は水回りの劣化が激しく、下水は何度も詰まり、マンホールを開けると汚物がいっぱいということも頻繁でした。また、雨が降ると雨漏りを起こし、水道が使えないと思うと貯水槽に水がない、ということもありました。エアコンは平成になってから作業室には付きましたが、トイレにはエアコンがなく、利用者も介助する職員も夏場は汗だくでした。

多目的トイレ

新棟の建設にあたり職員の要望を聞いていただき、職員の思いを新棟建設に反映させることができたのは本当にありがたい話でした。こんな経験は２度とないと思います。ただ、設計については素人であり、予算的な制約もある中での要望だったので、すべての思いが実現されたわけではありません。設計から携わったものとして当初描いていた青写真と実際の５年間を比べてみたいと思います。

① まず、トイレです。前述したように障害のある人にとって過酷なトイレだったためにエアコン設置とその広さ、数にもこだわりました。どうしても排泄の時間が長い人が多く、利用者の高齢化に伴いトイレ介助が必要な人が増えると予想しました。

⇒結果、トイレは 14 か所設置できました。予算的なこともあり、全てのトイレにエアコンが付いたわけではありませんが、車いす用のトイレや障害の重い人が使うトイレにはエアコンが設置できました。そのため利用者も快適に排泄できるようになり、職員も汗だくにならずに介助できるようになりました。設計時に考えていた通りになったと思います。ただ残念だったのは旧棟の時に下水が詰まって困りましたが、下水管の太さを変えることができず、支援センターでも５年の間に何度も詰まっています。これはある意味障害者施設の宿命かもしれません。

作業スペース

② 次は部屋のつくりです。障害の重い人の部屋にはクールダウンするための個室スペースを作ったり、作業室から更衣室に直接入れるような設計にしていただきました。また、自閉的傾向のある人には作業に集中できるように仕切りをつけて空間の構造化ができるようにしました。

⇒結果、個人のスケジュールを置いたり、自分の好きな写真を飾ったりできるようになり、個別スペースとして活用されています。作業も集中して取り組めるようになりました。パニックになっても、すぐ近くにクールダウンする部屋があるので、落ちつき易くなり、他の人への影響も少なくなりました。

③ ３つ目は新作業の導入です。これまでにない新しい作業種を導入するということで、水耕栽培に取り組みました。障害者の作業としてはほとんど例がなく、近隣では明石に水耕栽培を取り組んでいる事業所があり、見学に行きました。

⇒当初の予定では姫路の大手ホテルからの取引だけで十分な売り上げが確保できる予定でしたが、コロナ禍によりホテルのレストランが休業するなどの影響を受け、取引量も激減しました。その後も十分な取引がなく、現在は近隣レストランに販路を広げていますが想定していた売り上げには届いていないのが現状です。

水耕栽培室

こうして振り返るとあっという間の 5 年間でした。オープンした平成 29 年は引っ越しや見学などで忙しすぎてほとんど記憶がありません。思い描いていた通りになったこともありますが、思い通りになっていないこともたくさんあります。これから思い通りにならなかったことの修正をしながら歴史を紡いでいきたいと思います。

最後になりましたが、利用者、家族、地域の皆様、関係機関等、すべての皆様に感謝申し上げます。これからも皆様の温かい目で見守っていただきますよう、お願い申し上げます。

活動報告１　地域交流事業
～飲んでうれしいはな市もんめ、作ってたのしいはな市もんめ～

障害者支援センター　地域交流推進事業係　中川明美

例年、「花の北福祉まつり」を１０月の地域の秋祭りと同じ日に今の児童部の敷地内で開催していました。増位中学校吹奏楽部の演奏や様々なステージ、模擬店、地域の屋台練りなど地域の方々とふれあう楽しい行事です。利用者の方々も毎年楽しみにしている一大イベントですが、悪天候やコロナ禍の影響により、５年に渡って開催できていません。

それでも「地域の方とのふれあいを大切にしたい」という思いは少しも変わっていません。昨年度、コロナ禍でもできることを検討した結果、「飲んでうれしいはな市もんめ」と「作ってたのしいはな市もんめ」を開催しました。花の北福祉まつりの意義でもあった「地域とのふれあい」「障害のある人への理解の推進」を継承しています。「来年も参加したい」という声をたくさんいただき、今年度も開催する運びとなりました。

「飲んでうれしいはな市もんめ」は、福祉まつりを長年一緒に開催してきた白国、保城、西中島、保城横手、増位新町の自治会の方々に、福祉まつりで育んできた地域とのつながりやルネス花北の理念を掲載した、ドリンクチケットつきのチラシを配布しました。「ルネス花北ってどんなところ？」と少しでも興味をもって見ていただけるように、そして、当センターの喫茶に足を運んでいただき、障害のある人が働いている姿を知っていただく機会としました。

「作ってたのしいはな市もんめ」は、増位・水上・砥堀の小学校の児童のみなさんを対象として、普段、障害のある方たちが従事している仕事を体験できる機会としました。10 月 16 日（日）と 30 日（日）の２日間に渡り開催し、44 名の児童に参加していただきました。体験内容は、「クッキー作り」「エコバック作り」「名刺作り」「キーホルダー作り」の４つです。

クッキー作りの様子

ごきょうだいやお友だちと一緒に、当日はたくさんの地域の方々が来てくださいました。コロナ禍のため、利用者のみなさんは参加できなかったのですが、写真や動画を使って作業の様子を見ていただき、普段、障害のある方がどのように仕事をしているのか、知っていただく機会となりました。

エコバック作りの作品

体験が終わると、自分で作ったクッキーやエコバックなどを手に取り、「楽しかった」「友だちをつれて来年も来たい」などとても満足そうな表情で話してくれました。付き添いの保護者の方からも、「よい体験になりました」「また喫茶を利用してみたいです」などうれしいお言葉をいただきました。

コロナ禍がいつになったら終息するのか見通せませんが、今できる地域の方々との交流を大切にしていきたいと思います。そして、障害がある方もない方も、みなさんが同じ地域の中で、楽しく充実した生活ができていることをうれしく思います。

活動報告２

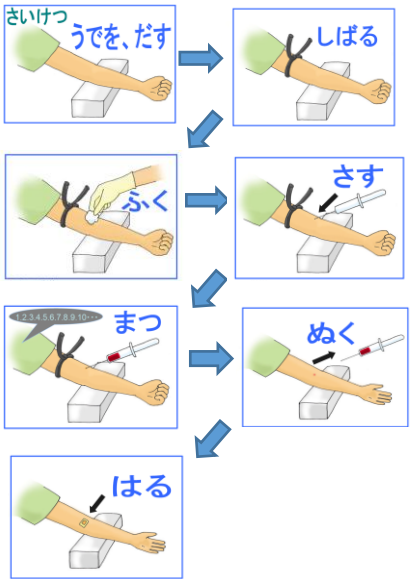
プレパレーションの取り組み

障害者支援センター　活動作業グループ　中川明美

みなさん「プレパレーション」という言葉を聞かれたことはありますか？

プレパレーションとは、小児医療の言葉で、発達段階に応じて治療の説明をし、本人にとってつらい検査を受けられるようになるために練習を重ね、自分の力で乗り越えていくようにサポートしていくことです。

自閉症支援の視覚支援にも共通するものがあります。自閉症の方は、「目の前に存在しないものを理解することが苦手」「漠然とした見通しや新奇場面が苦手」などの特性があるため、視覚的情報があると理解につながります。これらの特性から、自閉症や知的障害の成人の方にもプレパレーションを活用できるのではないかと考え、看護師を中心に ３ 年前から取り組みを始めました。



めくり式の絵カード（採血）

※医療サポート絵カード,社会福祉法人大阪知的障害者育成会

まずは、年 １ 回の健康診断における採血や血圧測定のプレパレーションから始めました。注射器が苦手で、センターに通い始めてから一度も採血ができない利用者もいました。ただ、健康診断の結果は、その方の健康状態を把握する大切なデータになります。ご家族だけで医療機関を受診することが難しい方も多いため、センターでの健康診断結果がとても大切であると感じていただいているご家族も多いです。

プレパレーションを進める上で、絵カードなどで一人ひとりが理解しやすい方法で説明し、ご本人が納得して取り組めるようにしました。拒否があれば、ご本人の気持ちを優先して一旦中止し、挑戦してうまくいけば称賛して成功体験につなげていくことを大切にしました。

２年目からは一人ではなく、みんなでがんばれるよう集団の力を活かしたグループダイナミクスを取り入れました。同じ空間に集まり、順番にプレパレーションを行いました。他の人が採血の練習をしている場面を見ることで、見通しをもって臨めるようにしました。

採血のプレパレーションの様子

グループダイナミクスの様子

さらに、この２年間は新型コロナウイルスのワクチン接種がありました。これまで積み重ねてきたプレパレーションを取り入れた結果、注射が苦手だった人もワクチン接種を受けることができました。採血のプレパレーションの経験が活かせたことは、地道に取り組んできてよかったと思えた瞬間でした。

プレパレーションによる成功体験は、人生において大きな自信につながると感じています。長い成人期をより充実して過ごすために、必要な時に必要な医療が受けられるよう、プレパレーションの取り組みを続けていきたいと思います。

活動報告 3

相談援助実習を受け入れました

ルネス花北成人部では、教員免許取得を目指す学生が福祉施設で介護等について学ぶ「介護等体験実習」や、歯科衛生士を目指す専門学校生が障害のある人の歯磨き等の指導について学ぶ「障害者施設実習」など、さまざまな実習を受け入れています。

新型コロナ感染症の流行のため中断が続いていましたが、今年は相談援助実習を受け入れ、社会福祉士の資格取得を目指す大学生 10 名が、最長 24 日間の相談援助実習を行いました。

実習受け入れ先は就労継続支援Ｂ型、就労移行、自立訓練、生活介護、地域活動支援センター等、多岐にわたりますが、それぞれの事業所で職員とともに利用者に寄り添い、関わりを深めていただきました。

実習を終えた学生のみなさんからメッセージをいただきましたので、その中から一部をご紹介します。

〇最初は利用者にどう接していけばよいかわからず戸惑うこともありましたが、職員からアドバイスをいただき、利用者と接していくうちに、個々の強みがわかり、それを活かす取り組みを学ぶことができました。

〇利用者との信頼関係を築くために挨拶や会話など日々のコミュニケーションが大切であると学校で学びましたが、コミュニケーションが苦手な方や気持ちを言葉に表すことが難しい方に対し、どのように関わり、どうコミュニケーションをとるべきか、今後も考えていきたいと思います。

〇利用者のみなさんが自らの力を活かして主体的に活動され、支援内容は一人ひとりさまざまで、時間をかけ利用者を理解していくことの重要性を感じました。

〇実習を通して丁寧な支援がどれほど大切なことか、よくわかりました。相談援助実習で利用者の方と関わることがとても楽しくて、間接的にではなく、直接関わっていくことを大事にしていきたいと思いました。

事業所・班紹介

製菓班
クッキー工房　樫の詩

障害者支援センター　製菓班　前田真織

製菓班は利用者 13 名で、たねづくり、計量、型ぬき、しぼり作業、トッピングに分かれ、一人ひとりの得意分野を活かしながら毎日、一生懸命作っています。経営的視点として、お客様に喜んで頂くための商品を作るということを大切にしています。

クッキーは、障害者支援センター内 café あっと・ゆ～るをはじめ、ヤマダストアーやコープこうべなど一般の店舗でも販売しており、開設当初から手作りにこだわり、甘さひかえめで小さなお子様にも喜ばれ、幅広い層のご支持をいただいています。現在、ビスケット、ミックスクッキー、チョコチップス、チュイール、コーンフレーククッキー、アーモンドスナップ、期間限定で緑茶クッキー、ショコラスターの８種類を販売しています。また、七夕やハロウィン、クリスマスでは、それぞれのイベントに合わせた型やラッピングを工夫し、季節限定商品を提供しています。10 月に販売したハロウィンクッキーは、かぼちゃやおばけ等の型で見た目もかわいいと好評をいただきました。12 月にはクリスマスクッキーの販売も行いますので、楽しみにしていてください。

クッキー工房樫の詩は、今年で創立 30 年を迎えました。この節目にこの度、クッキーのパッケージ、ラベルをリニューアルすることとなりました。パッケージはジップ付きにかわり、食べたい分だけ取り出して、長く楽しめるようになりました。プレゼントやお土産として多くご利用いただきましたが、今回リニューアルした商品もきっと喜んでいただけると思います。

せひ、一度御賞味ください。

レギュラー(250 円)　ハーフ(150 円)

ルネス花北成人部事業所一覧

姫路市立　障害者支援センター（多機能型） 〒670-0804　姫路市保城 309 番地 1　TEL　079-282-2384　FAX　079-224-6751	
就労移行支援	就職訓練班
自立訓練	自立訓練班
就労継続支援Ｂ型	喫茶班「café ぴあのぴぁ～の」「café あっと・ゆ～る」「ふれあい」 製菓班「クッキー工房　樫の詩」・洗車班・作業第一班
生活介護	軽作業班・個別作業班・活動班

姫路市立　かしのきの里（多機能型） 〒671-2246　姫路市打越 1352 番地 6　TEL　079-267-0202　FAX　079-267-0445	
就労移行支援 就労定着支援	就労移行班
就労継続支援Ｂ型	クリーン作業・陶芸班

生活介護	姫路市立　書写障害者デイサービスセンター 〒671-2203　姫路市書写台二丁目 7 番地 1 TEL　079-267-2636　FAX　079-267-2794

生活介護	姫路市立　広畑障害者デイサービスセンター 〒671-1116　姫路市広畑区正門通三丁目 2 番地 2 TEL　079-239-1888　FAX　079-239-1898

地域活動支援センターⅡ型	姫路市立　在宅障害者デイ・サービスルーム 〒670-0804　姫路市保城 309 番地 1 TEL　079-282-2384　FAX　079-224-6751

障害児・者一時保護施設	姫路市立　障害者やすらぎルーム 〒670-0806　姫路市増位新町二丁目 37 番地 TEL　090-2598-9237　FAX　079-224-3173

体育施設	姫路市立　障害者体育館 〒670-0806　姫路市増位新町二丁目 37 番地 TEL　079-288-7122　FAX　079-224-3173

就労継続支援Ａ型	あぼしリサイクル事業所 〒671-1236　姫路市網干区網干浜 4 番地 1　エコパークあぼし内 TEL　079-273-8889　FAX　079-273-8870

相談支援事業所	ぱっそ・あ・ぱっそ 〒670-0955　姫路市安田三丁目 1 番地　姫路市総合福祉会館　2 階 TEL　079-240-6702　FAX　079-240-6705

ゆうあいだより　No.179　令和 4 年（2022 年）11 月 21 日発行
発　行　姫路市総合福祉通園センター成人部
編　集　「ゆうあいだより」編集係